

自治体改善の輪 通信 2018 No9

8/4、5 研究員が東京に集い、合同合宿を開催



自治体改善マネジメント研究会 合同合宿「サマーセミナー2018」実施報告

研究員が東京に集い、語り合い、つながりを深める

自治体改善マネジメント研究会では、毎年夏に事例研究員全体の合同合宿を行っています。3回目となる今年の合同合宿は、集まりやすさなどの点から、8月4日と5日の2日間にわたり、東京で開催しました。

今年度が5期目となる研究員も、これまで総勢22団体36名となり、今回の合宿には、このうち17人が全国各地から集まりました。

今年度の合宿でのテーマを、「語り合おう！学び合おう！」とし、ねらいをこのように設定しました。

- ✓ 会員それぞれが、自身の志と実践経験を語り、聴き合って知り合う
- ✓ お互いの能力を引き出し合い、高め合える関係を築く
- ✓ 今後の研究会の取り組みアイデアを出し合い、実行につなげる

これは、当研究会の使命として、それぞれの自治体を経営改善するための支援をする立場としても、まずは自ら互いを知合い、お互いの強み弱みを認識した上で、互いの能力を引き出すことが必要であり、各自治体のお役に立つために、まずは個々の能力を活かして、チームワークを強める機会として、今回の合同合宿を行ないました。



改めて互いの人となりを知り合う「ジブンガタリ」

合宿参加前にまず、参加者同士、参加した事例研究会時にレポートを作成しましたが、各自のレポート再提出し、所属自治体の状況や各者のバックグラウンドを、事前に情報や思いを確認し合い参加準備しました。

そして、お互いの人となりをより深く知り合うためのツールとして、「私のルーツ」というテーマで自己紹介シートを作成・持参した上で、皆さん東京に集結しました。

今回の合同合宿のメインとなる、自己紹介シートをもとにした「ジブンガタリ」の具体的な進め方は、

- ☆ 一人ずつ「私のルーツ」シートをもとに、これまでの生い立ちから人生の転機、将来なりたい自分などを語る「ジブンガタリ」
- ☆ みんなで発表内容について、発表者について人となりをより深く知るための質問タイム
- ☆ その際、質問者の意見発表の場とならないよう、あくまでも、発表者に語らせる
- ☆ その間、その人と自分との共通項や共感したこと、自分にとって新鮮だったことや今後一緒にやってみたいことなどを付せんに書いて、発表した人とフィードバックタイムで共有



といった流れです。普段ここまで「ジブンガタリ」をすること、それを聞き入れることはないかと思います。初日夕方にはジブンガタリはいったん中断して、場所をかえて、長時間にわたりさらに懇親を深めました。

翌日は、予定を早めて朝9時から、理事より今後の研究会運営について説明し、研究会のミッション・ビジョン・バリューを共有した上で、各部会への研究員の参画を呼びかけました。その後「ジブンガタリ」を再開し、夕方まで続けました。

語り合い、共感したことをフィードバックし共有

丸2日間にわたる語り合いにより、濃密な時間を共有し、メンバー同士より深く知り合うことができました。

「ジブンガタリ」を聴き合う中で、その人との共通項や共感したことへの「いいね！」と、新鮮に感じて一緒にやってみたい「やりたいね！」の2種類の付せんに書いて、フィードバックタイムで共有しました。



その中から、いくつかを紹介します。

いいね!

- ◇ チャンスを掴む力
- ◇ 学びを続ける姿勢
- ◇ 想いは実現するまで言い続ける
- ◇ 自分が正しいと思ったことをしっかり意見し、戦うこと
- ◇ 自ら変えるために立ち上がる勇氣
- ◇ 周りに流されない、自分の芯を持つ
- ◇ 素直⇔反射的行動→何のためにやるのか
- ◇ 物事をそそのの段階まで立ち戻りつきつめる
- ◇ 改善のきっかけは目の前に
- ◇ 常に疑問を持つことが進展の素
- ◇ 不作為の罪
- ◇ 苦労は自分に 手柄は他人に
- ◇ 上司が責任をとる
- ◇ いかに上手く世代交代していくか
- ◇ 偉くなっても謙虚に偉ぶらずに仕事されている
- ◇ 自分の思考の中には現在と未来しかない。過去は振り返らない
- ◇ 属人的な「参謀」は御側用人的人材、危険な方向に進みやすい
- ◇ 首長に学びの機会を与える参謀

やりたいね!

- ◇ 他部署を巻き込む、色々な分野の人たちとの交流
- ◇ “何のために”を考える 「できる」から考えろ(「DNA 運動」の「D」)
- ◇ 「これで良いのか?」という批判的視点
- ◇ 反面教師ばかりの中で成果を出す、モチベーションを保つ
- ◇ 市民の目線で「なぜ何のために」を考え「どうやって実現するか」を考える
- ◇ 市民のために自分は何が出来るか
- ◇ しなやかにしたたかに芯のあるシンプルな行政経営
- ◇ どんな難題も時間と人とお金があれば解決できる
- ◇ 内は反面教師、外にロールモデルを求める

濃密な 2 日間でそれぞれ感じたこと ～感想より～

2 日間の合同合宿終了後、皆さんからいただいた感想をいくつか紹介します。

- ◆ 初めてお会いした方も多かったのですが、一気に距離を縮めることが出来たように感じる
- ◆ 「自我」を真摯に聴いてもらうことで、自分自身が理解される安堵が源になり、意欲が湧いてくることを実感した
- ◆ 自我を他人に押し付けるのではなく、何事も「利他」の精神を基本としたい
- ◆ 縁(えにし)を頂き、今後とも切磋琢磨する関係でいられるよう頑張りたい
- ◆ 今まで自分を深くまで語るという機会がなかったので大変有意義な 2 日間であった
- ◆ 職員一人一人がその自治体のことを自分の言葉で語り、ストロングポイントとウィークポイントを認識して仕事をするのが大切だと実感した
- ◆ 語り合い通じ、各々の価値観を交換し、関係が立体的になっていく感覚を覚えた
- ◆ 価値観を共有した共同体ほど強いものはないと感じた、職場においても実践したい
- ◆ それぞれの方がこれまで生きて来られた人生の重みがあって、生き方からは、仕事への姿勢ややり方、人との関わり方、これから先の未知(道)への臨み方など、心に響くものがあった
- ◆ 脳ミソがぐったり 疲れました(笑)
- ◆ 「ジブンガタリ」をやってみたが、自分のふり返し、自己力の増強、自己革新にも役立つものだと思う
- ◆ 自分を知る力は、相手を知り、理解する力の鏡となるものだと思う
- ◆ 火種が集まれば炎になる



語り合い・学び合いを、本質的な課題解決に向けた糸口の提供につなげる



この合同合宿で 5 期の現役の研究員の皆さんとだけでなく、これまで研究してきた 1 期から 4 期の皆さん同士の繋がりが、より深まりました。

この 2 日間は、参加者同士だけでなく自分自身の人となりを理解し、チームワークを強める濃密な機会となりました。お互いの強み弱みを認識した上で、さらに個々の能力を生かすチーム力を発揮して、自治体経営を改善するための支援につなげていきます。

(文責:長野県須坂市寺沢)